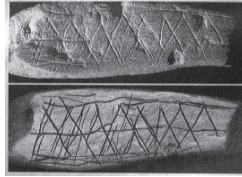


## はじめに装飾パターンありき

2002年1月、米科学誌『サイエンス』において人類が刻んだ最古の模様が発表されました。それは線で構成された幾何学模様で、南アフリカのブロンボス洞窟内のオーカーの土片に刻まれたものでした。年代測定の結果7万7000年前と判定されました。ラスコー洞窟に壁画が描かれた3万5000年前より4万年以上も遡ることになり、新聞でも大きく取りあげられました。



人類の歴史はイコール装飾の歴史と言っても過言ではなく、7万7000年前から今日まで脈々と装飾が引き継がれています。装飾表現の根底にはくり返しパターンがあり、ブロンボス洞窟の幾何学模様でもあきらかのように、人類にはくり返しのDNAが埋め込まれているとしか言い様がないほどに、さまざまな題材をくり返して装飾を育んできました。

話は7万7000年前からいっきに18～19世紀のヨーロッパに飛びます。この時期にフランス、ドイツ、イギリスなどで装飾模様集があいついで刊行されました。その背景には大航海～植民地支配を経て得られた博物学の隆盛や、産業革命で自動織機が発明されたことなどがあげられます。ヨーロッパの王侯貴族がペルシャやインド産の華麗なショールをいかに好んで着装していたかは、時々の画家に描かれた貴族の肖像画でたしかめられます。その希少なショールのイミテーションが、19世紀には自動織機で大量生産可能となり、装飾模様集は産業需要にもなっていました。そのため世界各地の装飾を収集したすぐれた図版集が、この時期に集中的に出版されました。なかでも1856年に刊行されたオーウェン・ジョーンズの『装飾の文法』は装飾百科のシンボリック的存在として位置付けられています。

この時期、同時に装飾パターン・デザインの手引書も数々刊行されました。とりわけ1900年代に出版されたウィリアム・モリス一派のルイス・デイの『パターン・デザイン』やA.H.クリスティーの『パターン・デザイン』(同じ書名)などは、今日でも凌駕するものがない内容を含み、現在でも復刻版で読み継がれています。

そして世紀末、イギリスではウィリアム・モリスのアーツ・アンド・クラフツ運動、パリではアール・ヌーボーやアール・デコなど、装飾は全盛期を迎えることにな

りました。しかし一方で、過剰な装飾ブームに疑問を投げかける動きもでてきました。建築家アドルフ・ロースが発表した論文の『装飾と犯罪』という刺激的なタイトルは、装飾熱に冷や水を浴びせる格好のキャッチフレーズとなりました。

20世紀に入ると、建築家ミース・ファン・デル・ローエが「Less is more.」(より少ないことは、より豊かなこと)として、装飾を排した建築を手掛けて、大きな潮流をつくりあげました。バウハウスから生じたモダン・デザインの台頭にもなって、装飾は急速に前線から後退し、息をひそめたまま今日に至っています。

ところが装飾は意外なところで着目されました。それはサイエンスの世界です。1981年、ロシアの結晶学者E.S.フェドロフが平面におけるくり返しパターンは17種類に集約されることを証明して論文にあらわしました。今日ではこのフェドロフの定理は17種の平面对称群として国際共通表記のもと、サイエンスの世界では標準的に用いられています。

またオランダのアーティスト、M.C.エッシャーが幾何学的なタイル・パターンを鳥や魚や動物などのかたちに変形させたパターンを作品にあらわしました。このようなパターンは、人類の長いパターン創作の歴史ではじめての試みでした。

さらにエッシャーと交流のあったイギリスの数理・物理学者ペンローズが、これまた人類のパターン創作の歴史にはなかった非周期的パターンを提示しました(後でイスラム寺院に同種のパターンが見いだされた)。

つまり、100年以上前にルイス・デイが『パターン・デザイン』をあらわした頃にはなかった知見が、この100年の間にもたらされたこととなります。本書は、これらの知見をもとに、あらたな装飾パターン・デザインの手引書にチャレンジするものです。

装飾を排した総ガラス張りのモダニズム建築が乱立するオフィス街においても、じつは装飾パターンは息づいています。かつての植物や伝統柄がロゴやキャラクターのパターンに変わって、ビルの谷間に花咲いています。ブロンボス洞窟の旧人類から引き継がれた装飾DNAが途絶えることは考えられません。

本書では、基本となるモチーフをパターン化する際に、17の法則をしめし、特徴はどのようなものかをあきらかにしていきます。またエッシャー・パターンも解明が進み、誰もがオリジナル・パターンを手掛けられる時代になりましたので、そのガイドをはたしていきます。他に非周期パターン解説も含めて、本書がオリジナル装飾パターン創作のお役に立てば幸いです。